

人がつながる 次代を創る ～思いやりのある まちづくり～

平素より皆様方にはご指導、ご鞭撻賜り、
心より感謝申し上げます。

不定期ではありますが、2015年夏号から数えて
今号で7回目の活動報告となりました。

お忙しいとは存じますが、
ぜひご一読くださいませ。

松原市議会議員 自由民主党

ささもと ゆうじ

活動報告 2018年 阳春号

議会報告

平成30年 第1回定例会 代表質問

●本市の今後の財政状況等に関する

長期的な展望について

～本市の財政の今後の見通しは本当に大丈夫!?～

膨らみ続ける予算規模。平成23年度に当初予算で400億円台に乗つてから30年度は450億円。国の制度変更によって、社会保障関係経費である扶助費や繰出金が重くのしかかり、財政を圧迫しています。国や府からの特定財源を差し引いた市の持ち出しである一般財源ベースでみると、やはり増えつつあるものの、扶助費、繰出金は増える一方、人件費や補助費等で減っており、ある程度抑制されています。

財政の硬直度合いを示す本市の経常収支比率は過去から100%を超えて推移しています。75%が妥当性を示すラインですが、もともと税基盤が弱いものの、過去に発行した建設に係る市債残高が着実に減少し、下水道事業会計における健全化の見通しにより、繰出金も減少傾向にあることから、同比率が好転する兆しがうかがえます。

また、市長からは今後においても、新たなまちづくりによる雇用の創出や人口獲得の取り組み、他地域からの観光誘客など、自主財源の確保に向けた積極的な施策の展開により、持続可能な行財政運営に努めるとの答弁がありました。

市民の皆さんには分かりにくい財政状況を、広報やその他の機会にこれまで以上に分かりやすく丁寧に説明してもらうことをお願いしました。

●セーフコミュニティ国際認証の再認証に向けて ～経済的負担の軽減効果は一体どれくらい?～

平成25年11月に国際認証を取得した「セーフコミュニティ」。5年目の今年が再認証の時期にあたります。

これまで多くの人と協働して、安心安全の取り組みを進めてこられましたが、その効果についてはどうなのか? 京都府亀岡市が出している



篠本 雄嗣 プロフィール

- 昭和46年7月16日生まれ
- 松原市立天美小学校卒業
- 松原市立松原第五中学校卒業
- 大阪府立生野高等学校卒業
- 広島大学経済学部卒業
- 松原市役所奉職
- 監査委員(元職)
- 福祉文教委員会委員長(元職)
- 予算特別委員会委員長(元職)
- 会派幹事長(現職)
- 議会運営委員会副委員長(現職)など
- 家族構成:妻、2女、1男
- 趣味:スキー、旅行、バドミントン
- モットー:誠心誠意

る資料から、経済的負担の軽減額を引き合いに出し、本市でも示していくよう研究すべきではないかと質問しました。明確な算出根拠を示すことは難しいかもしれません、費用対効果の面からはそのことも必要だと考えます。出来るだけの数字は示していくと市長から答弁がありましたが、全てがこの取り組みの効果ではないにしろ、医療費や介護費の抑制につながっているのは確かだと思います。

●防災士資格について

～地域防災を担うキーパーソン「防災士」～

昨年の第4回定例会にて要望した「防災士」資格助成。

昨年10月の台風21号の経験を無駄にしてはならないと、災害発生時に活躍出来る人材育成の必要性を訴えました。それが実り、来年度予算に盛り込まれました。

資格取得費用が約6万円と高額なため、取得の広がりが弱いと思われます。子どもから高齢者までが取得できる「防災士資格」が今後の市民協働に果たす役割は大きいと思われます。

まずは市内7中学校区から2名ずつの予定で助成開始とのこと。町会や自主防災組織などの公益団体の推薦のもと、資格取得後は地域に関わっていくことを条件に助成されます。自助・共助が災害発生時にはとても重要なことから、良いきっかけになることを期待します。

既に個人で取得した人もいますので、地域で活躍していただける「人材バンク」の必要性も訴えました。



地域力・創造力・組織力の強化をめざします!
3つの力を強化して、次世代に誇れるまつばらに!



●空き家対策について
～空き家対策が
地域活性化の一助と
なるはず～

近年空き家が増え続け、全国的にも800万戸を優に超える数に上っています。

その内きちんと管理できていない空き家を特定空き家とし、所有者に対し適切な管理をするよう求めものですが、現実には所有者が判明しにくく、また、管理を十分に行わない所有者もいる問題が顕在化しています。

市でも空き家の調査を完了し、これまで管理不十分な空き家30戸が除却され、その内9戸は新しく住宅が建設されました。ただ、未だ改善が見られず、管理不十分な空き家は51戸あります。今後も空き家の増加が続くと、「まちの活力」が失われる懸念が付きまといます。

市では、空き家の利活用についての個別相談ができる業者を、不動産事業者団体を通じて紹介する制度を始めますが、これ以上空き家が増えないように中古物件の利活用が進む施策がとても重要だと思います。



●不燃物・粗大ごみについて

～高齢者にやさしい「ふれあい収集」の拡充を～

昨年1月から始まった電話申し込み制。市外からの不法投棄防止やゴミが出た時にすぐに取りに来てもらえる利便性が謳われています。

ただ、その都度電話をかけるのが面倒なので、まとめて出す家庭(ゴミを出せずに溜まっている家庭)も多いのではないか、あるいは高齢者で電話をかけにくい家庭もあるのではないかとの懸念があり、昨年6月の一般質問では「ふれあい収集の拡充」をお願いしました。

その結果、民生委員さんや福祉委員さんなどの協力のもと、高齢者の見守りの中で、溜まっているごみは無いかの聞き取りもお願いしてもらえたようになりました。



現在、要介護の約100軒がふれあい収集に登録されていますが、今後は要介護以外の高齢者世帯約2,000軒以上が見守られることにつながり、元希にやさしい取組みの拡大に期待します。

活動報告は公式ホームページ、ブログ、Facebookでもご覧いただけます。

公式ホームページ

<http://y-sasamoto.sakura.ne.jp>

ささもとゆうじ

検索



ブログ(ゆうさんのブログ)

<http://ameblo.jp/yuusan-0716/>

Facebookでは「ささもとゆうじ」で検索



スマートフォンからは
このQRコードを
ご利用ください。

●新図書館建設について

～市民にやさしい図書館の在り方を!～

狭い市域に8館の図書館を有することが本市の特徴でしたが、施設の老朽化、バリアフリーの問題や図書が分散しているなどの問題などから分館を廃止して、新たに田井城今池に中央館の建設へと動き始めました。



ただし、耐震性の問題から分館が急展開で閉館に至った経験を踏まえ、しっかりと地域住民の意見を聞き、理解を得ることも同時にやっていくことを会派からも要望しており、受取りや返還の機能は残すものの、小学生児童のために学校図書の更なる充実や高齢者に向けての学校図書室の開放も検討してほしい旨の要望をしました。

安心安全が重要視される一方、開かれた学校を目指すのなら、高齢者との触れ合いを促進することも大切ではないかと考えます。

●観光協会の設立について

～観光協会の果たす役割は?～

平成28年度から観光課が立ち上がり、観光事業に力を注ぐ松原市。



近年、外国人観光客が増え、観光立国を打ち上げた我が国においては、インバウンドによる観光客による消費に期待が膨らんでいますが、観光資源が十分でない本市に外国人観光客を呼び込むには、体験型の観光にも目を向ける必要があります。

以前から中河内の各自治体との連携で観光事業を進めてきたものの、自治体間で考え方には差があります。そこで、観光誘客施策に足並みを揃えるべく、遅まきながら今年度に本市でも観光協会を立ち上げることとなりました。

本市を訪れる方々に適切な情報提供や南河内の玄関口として、この地域の魅力を伝える窓口としての期待が高まります。

運営資金は会員を募り会費で賄うのですが、決して容易ではありません。存続のためにはルール作りを行い、財政を圧迫しないように十分に注意してもらいたいと要望しました。



市政に対するご要望、ご相談がございましたら
お気軽にご連絡ください。

ささもと ゆうじ後援会事務所

〒580-0033 大阪府松原市天美南4-10-3

携帯電話: **090-1445-1086**

TEL/FAX: 072-283-1414

E-mail: y.sasamoto@pink.zaq.jp

ささもとゆうじ後援会では、各種後援会活動などでご支援いただける方を随時募っております。

皆様方のお役に立てる議員にお育てくださいますよう、どうぞ宜しくお願い致します。